

第41回粘土科学討論会報告

第41回粘土科学討論会は、1997年9月17日（水）（水）から19日（金）までの3日間、福井県立大学福井キャンパスを中心に、関係委員各位と、福井県立大学はじめ関係機関の協力をえて、162名の参加者を迎えて開催された。特別講演が2題、シンポジウムが4人の演者のレポートで行われ、一般講演等は口頭が46件、ポスターが48件で総数94件の発表があり、それぞれ活発な討論が行われた。

大会第1日目の17日は、先ず一般講演の一部が行われ、「手取層群の恐竜化石」と題した福井県立博物館の東洋一主任学芸員の特別講演1が行われ、「天然から学ぶ素材合成」というテーマのシンポジウムでは、東京大学総合博物館の歌田実氏が「天然ゼオライトおよび関連鉱物の生成条件」、東ソー(株)南陽研究所の板橋慶治氏が「ハイシリカゼオライトの合成とその特性」、水沢化学工業(株)研究所の佐藤悌治氏が「1:1型トリ亜群粘土鉱物の合成と利用」、コープケミカル(株)新素材研究所の古沢隆資氏が「粘土鉱物の合成と利用」という題でそれぞれレポートした。夜には、坂本福井県立大学学長や特別講演とシンポジウムの演者などを招いて、福井県立大学多目的ホールで懇親会が盛大に行われた。

第2日目は、「生物電気分析化学の最近の話題」

という題で福井県立大学の千田貢生物資源学研究科長の特別講演2、一般講演の口頭発表の残りとポスター発表および本年度の総会が行われた。総会では、本年度の日本粘土学会各賞の授与式が行われ、佐藤会長より鹿児島大学理学部の富田克利会員の「雲母/スメクタイト混合層鉱物の合成とその生成機構に関する研究」に対して学会賞が、また水沢化学工業株式会社の「機能性半合成・合成粘土鉱物の開発と工業化」に対して技術賞がそれぞれ記念品とともに授与された。

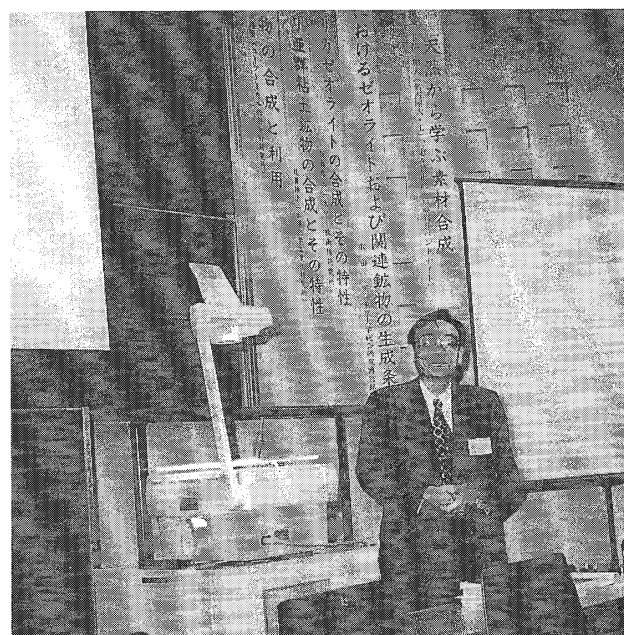
第3日は、福井県立博物館の恐竜化石クリーニング作業、勝山市北谷町の手取層群恐竜発掘地および一乗谷朝倉氏遺跡発掘現場などの見学会が開催された。参加者は16名と少なかったが、みな熱心に見学し、活発に質問などをしていた。

「第41回粘土科学討論会講演要旨集」の発行日を平成9年8月31日と印刷しましたが、これは平成9年9月17日の誤りなので訂正させていただきます。なお、講演要旨集にも訂正文を挟んでおきました。この件に関しては、たいへんご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。

またこの場をかりて、ご多忙な中にありながら特別講演やシンポジウムの演者を引き受けて頂いた諸氏、ならびにご協力頂いた関係各位に感謝いたします。
(大谷朝男・北川靖夫)



佐藤会長の挨拶



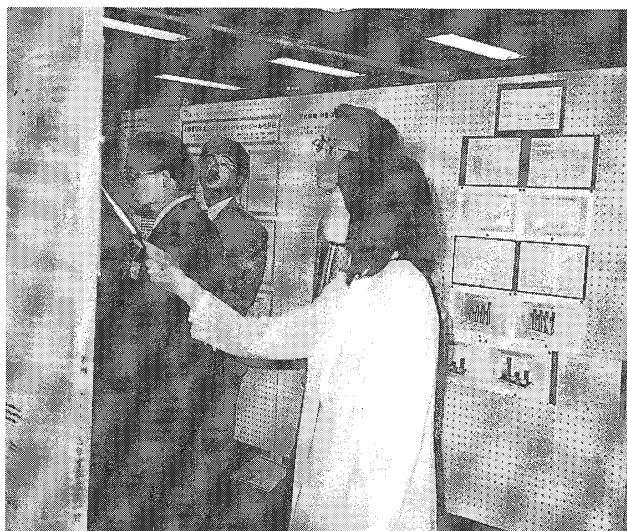
福井県立大学千田貢教授の特別講演



富田会員，学会賞



(株)水澤化学工業，小川社長，技術賞



ポスターセッション会場



懇 親 会



懇 親 会



懇親会(福井市からおにぎりとミニトマトのサービスがあった)